

枚間神社

開聞岳の麓、クスノキの古木が茂る中に鎮座する枚間神社。山の神が祀られており、ハイカーたちは登山口に向かう前にしばしばここで安全を祈願する。

記録によれば、この神社は708年に勅願によって創建されたようだ。長い歴史に加えて、この神社は朱塗りの鮮やかな建造物で知られている。神道の伝統では、赤は邪気やその他の災難を払うことができる燃える力を表す。

この神社のひとつの特徴は、本殿の龍柱である。内拝殿にあるこの支柱には、精巧な彫刻が施され、龍に見立てた絵が描かれている。これは1786年、島津家の当主が四十二歳の誕生日を迎えるにあたって注文したものである。日本では四十二歳は不吉とされており、神社への寄進は徳を積むことで災難を避けるという意味があった。

境内の中心には、勅使殿と呼ばれる精巧な彩色を施した建物がある。勅使殿は、勅使が儀式の供物をささげる場所だった。屋根の波打つ破風の下、軒には繊細な菊の花が描かれている。また、金色の牙を持つ象や獰猛な獅子、大根などの縁起の良い絵も描かれている。